
浦島渡吉

三代渡吉

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

浦島渡吉

【Nコード】

N8310I

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

小説家になろう村へ久々に戻ってきた浦島渡吉は驚いた。村は最先端の都市になっていたのだ！

浦島渡吉は驚いた。これまで現実離れた体験をしてきた彼ですら、この状況には困惑を隠しきれない。

自分の住んでいた小説家になろう村に戻ると、村は都市になっていたのだ。

それどころか、現代における最先端の技術を惜しみなく使用している。

車は空を飛び、船はドリルで地中に潜り、床は全てコンベア式。

携帯電話があれば殺し以外ならなんでもできる。そもそも浦島渡吉がここにいたところに、携帯電話などなかった。

「どうなつとるだが！」

土地の方言で思わず叫んでしまった浦島渡吉の声に、背広姿の間達が一斉に振り返った。

そもそも、浦島渡吉は進んでこの村を出て行ったわけではない。

ある日海岸を歩いていると、生意気な子供達にいじめられている亀を発見した。

子供達にボコボコにされながらも彼は亀を助け起こした。途端、後ろから思いつきり殴られた。別の亀がいたのだ。

しかもこの亀達は、ロシア軍に所属している特殊部隊のメンバーだったのである。

目が覚めた時、彼は竜宮城なる収容所に連れてかれていた。

竜宮城は極寒のシベリアの海底にある施設で、そこに連れて行かれた浦島渡吉は、過酷な重労働を押し付けられた。

台車へ大量に詰められたお菓子を店内に運ばされたり、賞味期限の切れそうな食品に値引きのシールを貼り付けたり。

極寒の地では、金属製で出来ている台車の取っ手はおそろしく冷

っていうかなんでここにいるタイやヒラメはみんな平気なんだよ、とか思いながら数年を過ごした。

見知らぬ土地に放り出された彼は、流れるまま非合法的な組織を仲介してイカダを手に入れ、凍傷により手足合計七本の指を失いながら、ようやく帰ってきたのだ。

都市の警備員がやってきた。

「オラッ、オラ……」

とは身の程知らずめ、鉄砲隊前へ！」

「てっ!」

もなく蜂の巣にされてしまった。

た。

（後書き）

リハビリに一作。四月まではめぼしい賞もないからなろうつにも顔出
すぞ。誰も待ってないけど。

つかお前誰だ？ としか言われないですよね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8310i/>

浦島渡吉

2010年10月9日14時46分発行